

平成 13(2001)年 7月～12月 **長期漁況海況予報** 平成 13(2001)年 7月発行



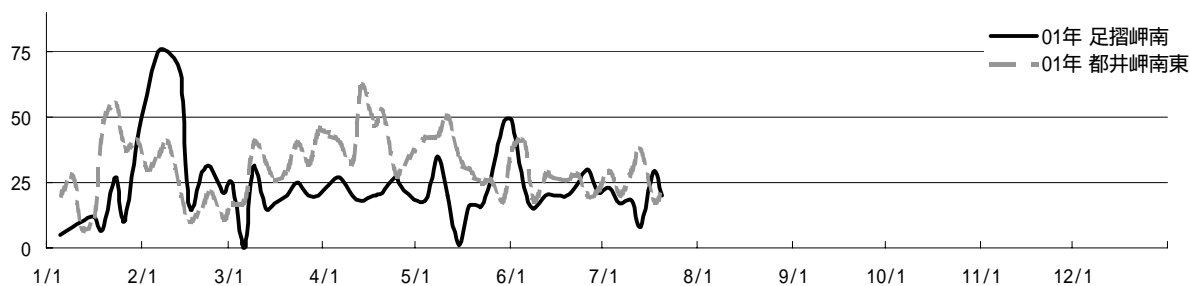
大分県海洋水産研究センター 879-2602 大分県南海部郡上浦町大字津井浦
Phone 0972-32-2155 Fax. 0972-32-2156 <http://www.mfs.pref.oita.jp>

海況経過<平成 13 年前期>

黒潮

12年12月に種子島南沖で発生した黒潮小蛇行は、1月中旬にかけて都井岬沖で発達し、1月下旬に足摺岬沖、2月上旬に室戸岬沖、2月中旬に潮岬沖を通過しました。また、4月下旬にも九州南東沖で黒潮小蛇行が発生し、5月上旬に豊後水道外域、5月中旬に土佐湾～紀伊水道外域、5月下旬に潮岬沖を通過しました。

黒潮北縁と都井岬及び足摺岬との距離の状況は、期間を通して離接岸を繰り返しました(南西東海沿岸海況速報による)。



足摺岬：接岸 0～25 マイル やや離岸 25～45 マイル 都井岬：接岸 0～30 マイル やや離岸 30～50 マイル

図1 足摺岬南及び都井岬南東方向の黒潮北縁までの距離(マイル)

水温

豊後水道の水温(0m、10m、20m、30m、50m及び75m層)は、「きわめて高め」～「平年並」でした。大分県側の海域を北部(沿岸定線Sta. 1-9)、中部(同Sta. 10-16)及び南部(同Sta. 17-22)に分けると、北部では1月は「平年並」、2-3月は「やや高め」、4-5月は「高め」、6月は「きわめて高め」の傾向となりました。中部では1月は「平年並」、2-4月は「やや高め」、5-6月は「高め」の傾向となりました。南部では1月及び3月は「やや高め」～「平年並」、2月は「やや高め」、4-6月は「高め」～「やや高め」の傾向となりました。

伊予灘と別府湾の水温(0m、10m、20m、30m及び50m層)は、「きわめて高め」～「平年並」でした。伊予灘では1-3月は「平年並」、4-6月は「やや高め」～「平年並」の傾向となりましたが、6月の50m層については「きわめて高め」でした。別府湾では1-3月が「やや高め」、4-6月は「平年並」の傾向となりました。

塩分

豊後水道の塩分は、「やや高め」～「低め」でした。中部及び南部1-2月の「やや低め」～「低め」傾向、北部6月の「やや高め」傾向を除き、期間を通して「平年並」の傾向となりました。

伊予灘と別府湾の塩分は、「やや高め」～「低め」でした。両海域とも1-3月が「平年並」、4-6月は「やや高め」の傾向となりました。

表1 水温の年間偏差評価(豊後水道 2001年)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	
(北部)	0m	+ -	+	+	+	+++	+++
	10m	+ -	+	+	++	+++	+++
	20m	+ -	+	+	++	++	+++
	30m	+ -	+	+	++	++	+++
	50m	+ -	+	+	++	++	+++
	75m	- +	+	+	+	++	+++
(中部)	0m	+ -	+	+	+	++	++
	10m	+ -	+	+	+	++	++
	20m	+ -	+	+	+	++	++
	30m	+ -	+	+	+	++	++
	50m	+ -	+	++	+	+	+
	75m	+ -	++	+	+	+ -	+
(南部)	0m	+ -	+	+	++	++	++
	10m	+	+	+	++	++	++
	20m	+	+	+ -	++	++	+
	30m	+	+	+ -	+	++	+
	50m	+ -	+ -	+ -	+ -	++	+
	75m	- +	++	+	+	+	+

表2 水温の年間偏差評価(伊予灘・別府湾 2001年)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	
(伊予灘)	0m	+ -	+ -	- +	+ -	- +	+
	10m	+ -	+ -	- +	+ -	+ -	+ -
	20m	+ -	+ -	- +	+	+ -	+
	30m	+ -	+ -	- +	+	+	+
	50m	+ -	+ -	+ -	+	+	+++
(別府湾)	0m	+	+	+ -	- +	+	+ -
	10m	+	+	+	- +	- +	+ -
	20m	+	+	+	+ -	- +	+ -
	30m	+	+	+	+ -	+ -	+

注) +++:きわめて高め ++:高め +:やや高め +-:高めの年間並
 -+:低めの年間並 -:やや低め --:低め ---:きわめて低め

海況の見通し<平成13年後期>

黒潮

7月後半に黒潮はC型で安定するでしょう。9月後半に九州南東沖で小蛇行が形成され、10~11月に四国沖を東進するでしょう。11月後半に黒潮はB型となるでしょう。そして、これらの期間を通して、当該海域において黒潮の離接岸が繰り返されるでしょう。

水温

「年間並」~「高め」でしょう。

予測の根拠

中央水産研究所及び関係府県:平成13年度第1回太平洋イワシ・アジ・サバ等長期漁海況予報会議資料(2001)

気象庁気候・海洋気象部:平成13年夏季の北西太平洋の海面水温予報(2001)

神戸海洋気象台:平成13年夏季の南日本海区の海面水温予報(2001)

資源状況と漁況経過 <平成 13 年前期>

マイワシ

昨年までの経過

鶴見町、米水津村及び蒲江漁業協同組合のまき網(特にことわりのない限り、まき網についての数値は、この3漁協に関するもの)によるマイワシの漁獲量は、1986年から1990年までの間は、年間30,000トン前後あり、その大半は3月から7月に漁獲される体長15cm以上の「中羽」以上でした。

1991年以降、「中羽」以上は減少傾向となり、一方、7月から9月に主に漁獲される体長10cm前後の「小羽」も、1993年に、一旦、増加しましたが、その後は低調に推移しました。全銘柄の漁獲量は1998年まで8年連続で減少し、1999年は前年に比べ僅かながら増加しましたが、2000年は再び減少し、約450トンと最低値を記録しました。

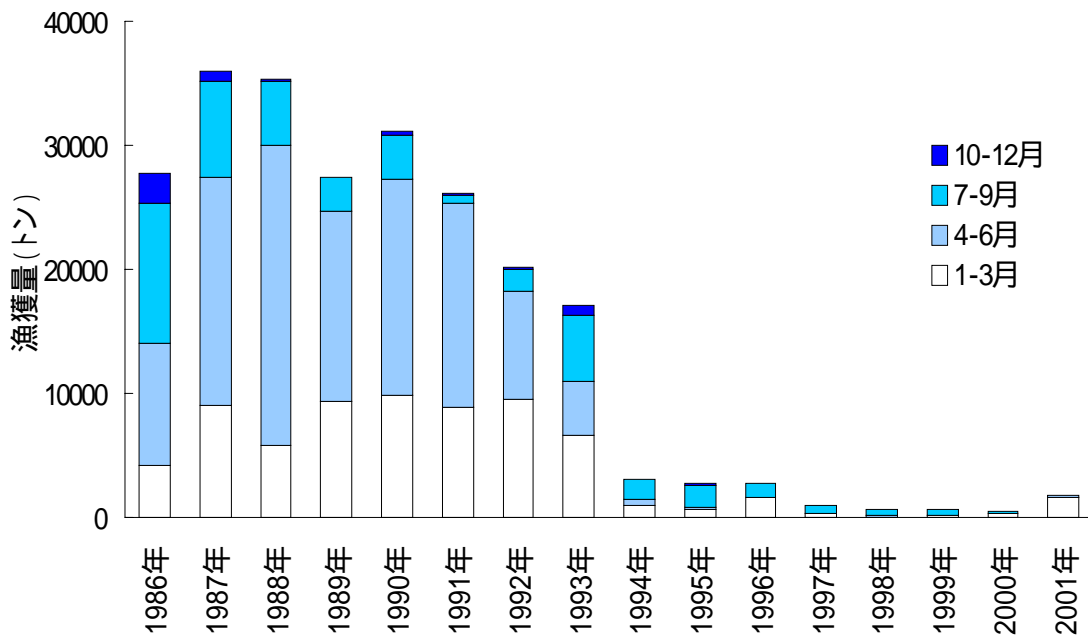


図2 マイワシのまき網漁獲量 (鶴見町・米水津村・蒲江漁協)

本年の経過

2001年前半の月別漁獲量は、2月の豊漁により、1～3月が1,653トン、平年比37%となりました。特に、2月の漁獲量は1,442トンと平年を上回り、本月だけで昨年の年間漁獲量の約3倍に達しました。4～6月は31トンで、前年比81%、平年比は1%に満たず、低水準で推移しました(以下、まき網の平年値を1986～2000年の平均漁獲量とする)。

カタクチイワシ(成魚)

昨年までの経過

まき網によるカタクチイワシの漁獲量は、これまで一年毎に増加と減少を繰り返しており、漁獲の多い年(偶数年)で2,000～3,000トン程度、漁獲の少ない年(奇数年)で1,000トン前後の漁獲となっていました。しかしながら、1999年には1月中旬から7月中旬にかけて豊漁が続き、最高値を記録しました。平年の漁期は6月から9までが中心であり、1999年は漁獲量及び漁期とも特異的な年となりました。そして、2000年は約2,100トンと、漁獲の多い年である偶数年の水準に戻りました。

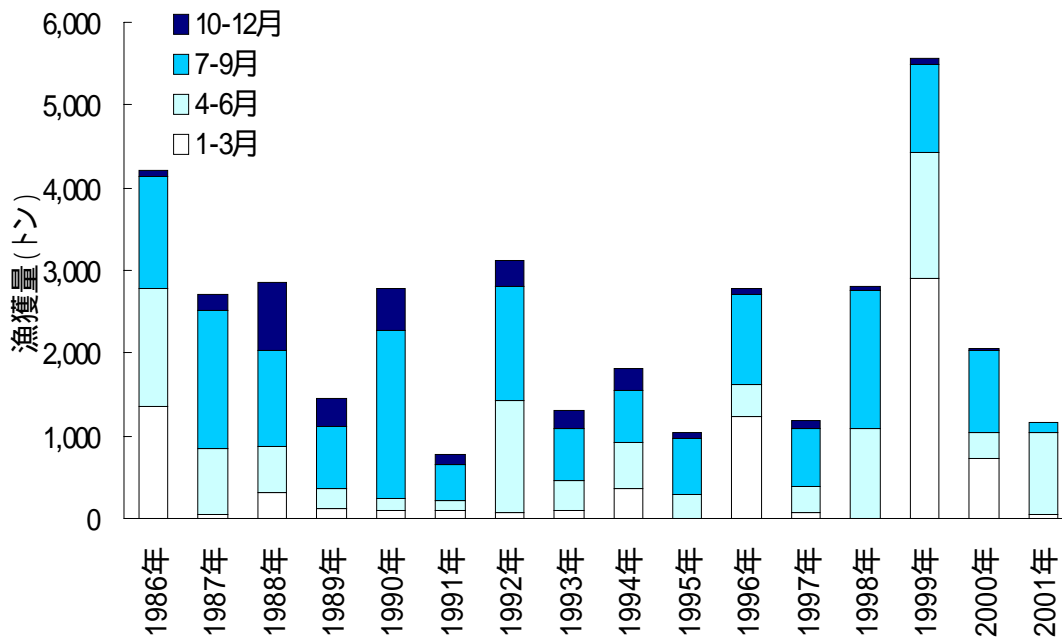


図3 カタクチイワシのまき網漁獲量（鶴見町・米水津村・蒲江漁協）

本年の経過

2001年前半の月別漁獲量は、1～3月が59トンで、前年比8%、平年比12%と低調で、この不漁は5月まで継続しました。しかしながら、6月は891トンの漁獲で豊漁に転じたため、4～6月は986トンで、前年比310%、平年比156%となりました。

カタクチイワシ(シラス)

昨年までの経過

佐伯湾(佐伯・鶴見)の船曳網によるシラスの漁獲量は、1992年に約530トンの最高値を記録した後は、減少傾向となり、1995年に約170トンと最低値を記録しました。その後は、増加傾向を示していますが、1993年以前の水準には及びませんでした。

別府湾(杵築・日出)では、1990年以降1,200～2,200トンの範囲で変動し、1998年の漁獲量は、1990年以降初めて1,000トンを割り、約750トンと最低値を記録しました。そして、1999年以降は再び1,000トンを超える水準となりました。

臼杵・津久見湾では、年変動が大きく、0～105トンの間で変動し、2000年の漁獲量は35.9トンで、平年比97%となりました(以下、船曳網の平年値を1991～2000年の平均漁獲量とする)。

推計方法:別府湾の漁獲量 = 製品(ちりめん)重量 × 2.514、豊後水道の漁獲量 = 製品(ちりめん)重量 × 2.380

本年の経過

2001年前半の月別漁獲量は、佐伯湾では1月に平年を上回りましたが、2月以降は低調に推移し、6月にやや回復しました。1～3月は16.0トン(前年比423%、平年比62%)、4月は2.8トン(同5%、18%)、5月は7.7トン(同16%、18%)、6月は30.4トン(同40%、71%)となりました。

別府湾では1～2月に平年を大きく上回りましたが、3月以降は低調に推移し、6月にやや回復しました。1～3月は221トン(前年比261%、平年比176%)、4月は1トン(同9%、11%)、5月は17トン(同11%、20%)、6月は165トン(同36%、63%)となりました。

臼杵・津久見湾では1～3月が0トン、4～6月が5.8トン(前年比21%、平年比36%)となりました。

ウルメイワシ

昨年までの経過

まき網によるウルメイワシの漁獲量は、1986年以降100～300トン程度でありましたが、1992年以降は増加傾向を示し、1996年には約2,300トンまで達しました。しかしながら、1997年以降は減少傾向に転じています。漁獲は主に夏期の6～8月に多くなりますが、近年は冬期の1～3月にもまとまった漁獲がみられました。

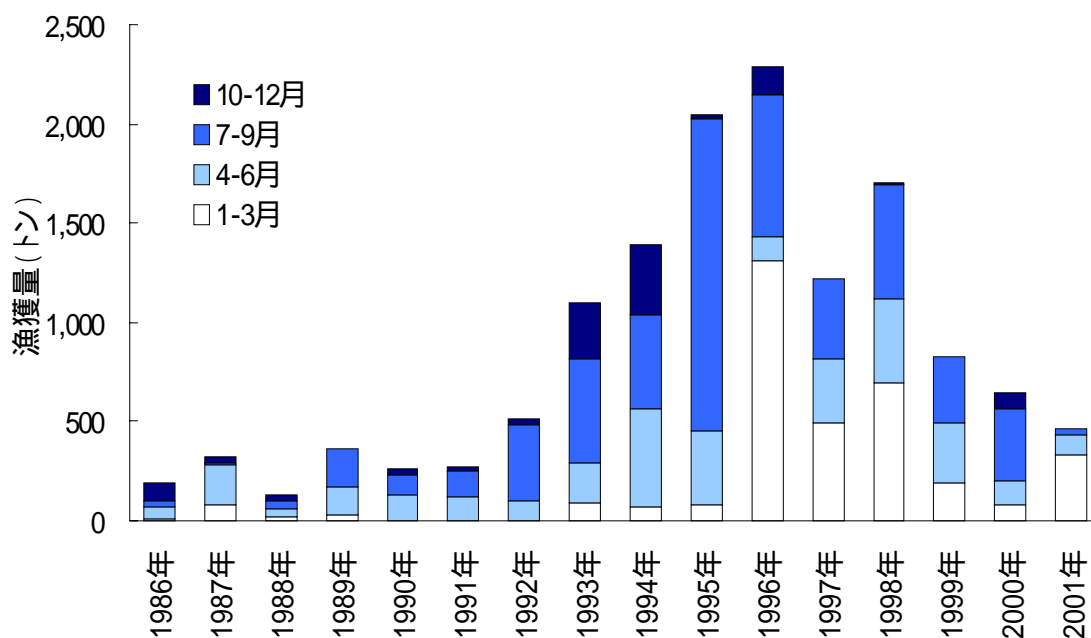


図4 ウルメイワシのまき網漁獲量 (鶴見町・米水津村・蒲江漁協)

本年の経過

2001年前半の月別漁獲量は、1～2月にまとまった漁獲があり、1～3月が333トンで、前年比426%、平年比159%となりました。しかしながら、3月以降は一転して不漁となり、4～6月は69トンで、前年比55%、平年比32%と低調でした。

マアジ

昨年までの経過

1986年以降、減少傾向にあったまき網によるマアジの漁獲量は、1991年に1,000トンを割り込みましたが、その後は増加傾向に転じており、1998年には約7,500トンの漁獲量で、最高値を記録しました。1999年前半も継続して豊漁でしたが、それ以降一転して激減し、この不漁は2000年7月まで続いた後、同年8月からは再び豊漁に転じました。そし

て、最終的には1999年、2000年ともに約3,700トンの漁獲量となりました。

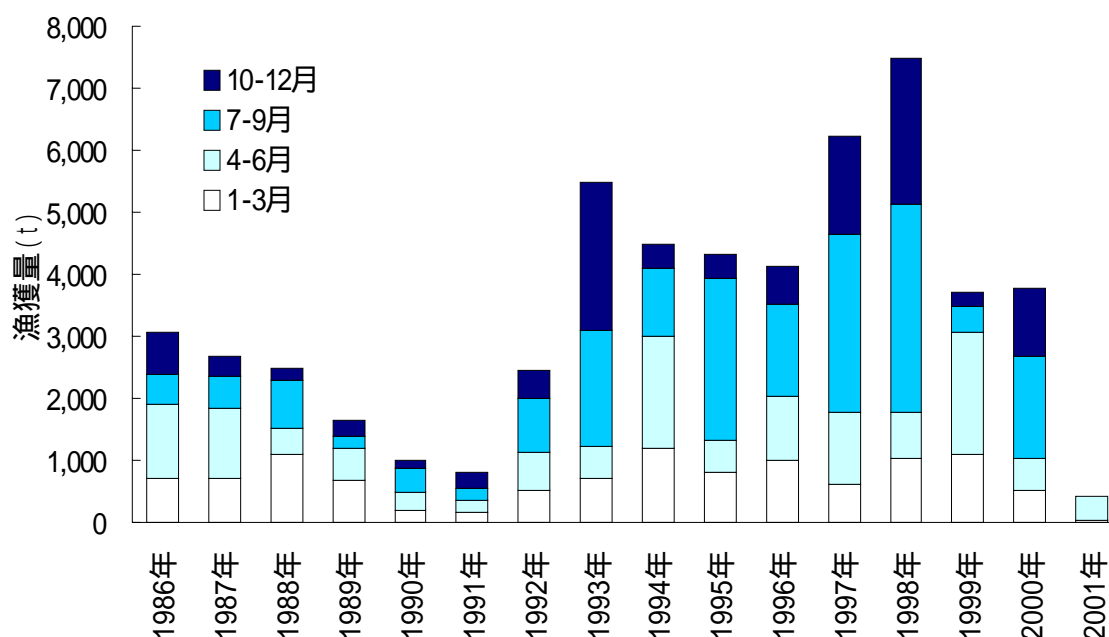


図5 マアジのまき網漁獲量（鶴見町・米水津村・蒲江漁協）

また、佐賀関町漁協の釣りを中心とするマアジの漁獲量は、1988年以降増加傾向で、1999年には248トンに達し、最高値を記録しました。しかしながら、2000年は一転して170トン（平年比83%）と落ち込み、これまでの安定的な増加傾向に陰りがみられました（以下、佐賀関町漁協の平年値を1988～2000年の平均漁獲量とする）。

本年の経過

昨年8月以降の豊漁は、同年12月（平年比79%）に途切れ、まき網による2001年前半の月別漁獲量は、1～3月が28トン、平年比4%と、この時期の漁獲としては最低値を記録しました。4～6月も376トン、平年比45%と不漁で、特に6月は9トン、平年比4%と平年を大きく下回りました。

佐賀関町漁協の月別漁獲量は、1～3月が43トン（平年比86%）、4～6月は35トン（平年比61%）と平年を下回りました。

マサバ・ゴマサバ

昨年までの経過

まき網による「さば類（マサバ・ゴマサバ）」の漁獲量は、1993年以降増加傾向を示し、1996年及び1997年には、それぞれ約14,000トンと約12,000トンをおいて豊漁となりました。「さば類」のうち、マサバは、近年、漁獲がほとんどない状況であり、一方、ゴマサバは、1994年以降、体長25～28cmの個体を中心に漁獲され、豊漁だった1996年は9月から10月中旬にかけて、1997年は8月から9月にかけて漁獲がピークに達し、記録的な漁獲となりました。しかしながら、1998年は一転してほとんど漁獲がなく、1,000トンを割り込んで最低値を記録しました。そして、1999年からは低水準ながら増加傾向を示しました。

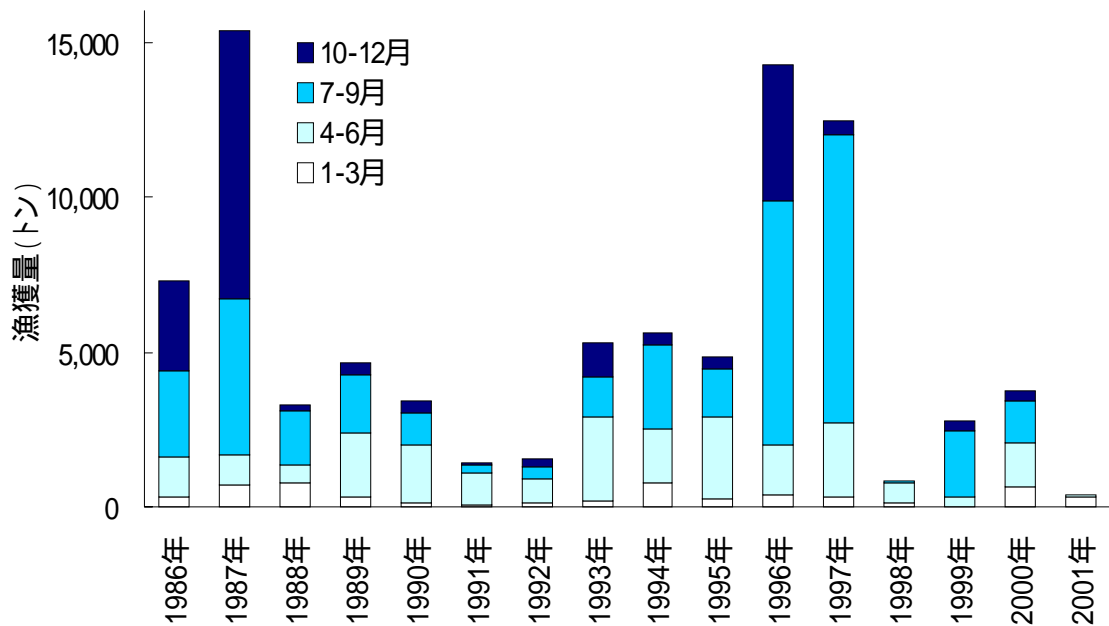


図6 マサバ・ゴマサバのまき網漁獲量（鶴見町・米水津村・蒲江漁協）

また、佐賀関町漁協の釣りを中心とするマサバの漁獲量は、豊漁であった1992年と1993年を除き、ほぼ100～200トンの範囲で変動し、1997年以降は減少傾向となりました。また、2～3年の短い周期で増減を繰り返す変動傾向もみられました。

本年の経過

ゴマサバを主体とするまき網による2001年前半の月別漁獲量は、2月の豊漁(344トン、平年比348%)を除き、各月0～5トン、平年比0～2%と大低迷しました。2月の豊漁により1～3月は346トンで、平年比100%となりましたが、4～6月は6トンで、平年比は1%に満たず、この時期の漁獲としては最低値を記録しました。

佐賀関町漁協のマサバの月別漁獲量は、1～3月が43トン(平年比51%)、4～6月が9トン(平年比36%)と平年を大きく下回りました。

漁況の見通し<平成 13 年後期>

マイワシ

【太平洋系(北薩 - 熊野灘)の見通し】

来遊量は北西薩、大隅海域では前年・平年を下回るでしょう。日向灘～徳島沿岸では前年並みの低水準でしょう。和歌山では低水準ながら前年を上回るでしょう。熊野灘では前年を下回るでしょう。

【説明】コーホート解析により、資源は低水準で減少傾向にあると考えられます。また、今期の漁獲の主対象となる0歳魚は、4月から6月の漁況が前年並みの低水準であったことからそれほど多くなく、1歳魚以上も、5月以降の漁況が極めて低調であることから低水準と予想されます。なお、和歌山では上半期マイワシシラスが好漁でした。



【大分県の見通し】

0歳魚の来遊水準は低いままであり、1歳魚以上についても来遊がほとんどない状況にあるため、全体としては、過去最低の前年を上回るものの、依然として低水準でしょう。

カタクチイワシ(成魚・シラス)

【太平洋系(北薩～紀伊水道西部の成魚)の見通し】

来遊量は北薩では前年並み、日向灘では前年並みかやや下回るでしょう。豊後水道では前年並みか上回り、徳島では低調でしょう。

【太平洋系(志布志湾～常磐南部のシラス)の見通し】

来遊量は志布志湾では豊漁の前年を下回り平年並みでしょう。日向灘では前年を下回る低水準、別府湾・豊後水道では前年を下回るでしょう。土佐湾では前年並みか下回り、徳島では平年並みか下回るでしょう。和歌山は低調、伊勢湾・渥美外海では前年を上回るでしょう。遠州灘～駿河湾は平年並み、相模湾では前年を上回り、常磐南部は平年並みでしょう。

【説明】卵数法によると、資源水準は高位で横ばい傾向にあると考えられますが、漁況経過からみると、一概に好調とは言えず、低調な海域もみられます。

【大分県の見通し】

成魚は6月に平年を上回る漁獲があったことに加え、小サイズ(じゃみ等)の漁獲が2月以降、量的には少ないものの平年を大きく上回っていることから、来遊水準は回復に向かっていると考えられ、前年並でしょう。

また、シラスは6月に入り来遊水準は減少傾向から、やや回復に向かっていると考えられますが、依然として低水準であり、前年を下回るでしょう。



ウルメイワシ



【太平洋南部系(北薩 - 熊野灘)の見通し】

来遊量は北薩～薩南では低調の前年を上回るでしょう。日向灘、豊後水道では前年を下回るでしょう。豊後水道中部海域の愛媛県沿岸では10月まで前年を上回るでしょう。土佐湾では前年をやや下回り平年並みでしょう。徳島は低調、和歌山は前年並みの低水準でしょう。熊野灘の1歳魚は前年を下回り、0歳魚は前年並みの低水準でしょう。
[説明]産卵量解析により、資源水準は中位で、横ばい傾向にあると考えられます。漁況経過からみると、一部の海域を除き、低調な海域が多くみられます。

【大分県の見通し】

3月以降、来遊水準は減少傾向にあると考えられますが、ウルメイワシは好不漁の月変動が大きく、また、当該時期の漁獲量は当年1～6月の漁獲量と比較的高い相関($r=0.621$)があり、これから推定すると約460トンの漁獲となります(前年比104%、平年比99%)。従って、総合的に判断すると、平年、前年をやや下回るでしょう。

マアジ



【太平洋系(薩南 - 日向灘・豊後水道)の見通し】

0歳魚は前年をやや上回るでしょう。1歳魚は薩南では前年を上回ることが多くなく、他の水域では前年を下回るでしょう。全体として前年並みか前年をやや上回るでしょう。

[説明]資源量は1997年以降、連続して減少していましたが、2000年は加入が良好で、1996年以前に並ぶまで回復したとみられます。また、2001年級群の来遊量は、海域によっては比較的好調であった前年を下回る海域もありますが、流れ藻に付随した稚幼魚も多く、加入水準は高いと推定されます。2000年級群の加入量は多く、来遊は前年未まで良好でしたが、今年に入って来遊が途絶えた海域もあります。加入量水準に比較しては来遊量は総じて少なかったといえますが、紀伊水道外域では1999年級群の来遊が継続しています。

【大分県の見通し】

4～5月に漁獲主体である0歳魚に平年並のまとまった漁がみられたものの長続きせず、総じて2001年に入り、来遊水準は減少しており、平年、前年をともに下回ると判断されますが、上述・太平洋系2001年級群の加入水準は高いと推定されており、豊後水道域に黒潮による暖水波及が強まるなどすれば、好漁場が形成される可能性もあります。

マサバ・ゴマサバ



【太平洋系(薩南 - 日向灘・豊後水道)の見通し】

ゴマサバ0歳魚は前年を上回るでしょう。1歳魚は前年を下回り、2歳魚は前年を上回ることが少ないでしょう。マサバは低い水準でしょう。さば類全体としては、前年並みか前年をやや下回るでしょう。

[説明]ゴマサバの2000年級群は黒潮統流域の調査では極めて大きな加入量指数が得られていましたが、熊野灘以

西の海域への来遊量は極めて低く経過しており、今後、伊豆諸島周辺海域や犬吠以北への来遊は継続しようが、太平洋側全体では1997年、1998年よりやや高い程度の2000年級群の豊度を反映した比較的低い来遊量となる見込みです。また、比較的大きな群であった1999年級群の来遊量は前年の良好な漁況を支えていましたが、残存資源量は既に多くなく、まき網漁場ではこの群のみでの継続した来遊は望めないでしょう。2001年級群の来遊量についての情報は十分ではないものの、黒潮続流域の調査で得られた加入量指数は小さいと判断されます。一方、西日本太平洋側地先の定置網への入網は1999年には及ばないが2000年より多い模様です。

【大分県の見通し】

2月にまとまった漁がみられましたが、それ以降、来遊水準は激減していると考えられ、平年、前年をともに下回るでしょう(ゴマサバ主体)。

その他

予測の根拠

中央水産研究所及び関係府県：平成13年度第1回太平洋イワシ・アジ・サバ等長期漁海況予報会議資料(2001)

問い合わせ先

この予報に関する問い合わせ先は、大分県海洋水産研究センター 企画・海洋資源利用部まで
(〒879-2602 大分県南海部郡上浦町大字津井浦 電話0972-32-2155 ファクシミリ0972-32-2156 e-mail : kimura@mfs.pref.oita.jp)